

2023年度 第3四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

Q1) 通期業績予想を修正した背景を教えてください。

- A1) ・ 今期の通期業績予想の修正では、第4四半期で発生する費用と収入の見通しを踏まえながら、第3四半期累計までの営業利益の上振れを反映させました。
- ・ 第3四半期は、国際旅客のイールドや国際貨物の単価が想定よりも高水準で推移したことにより、営業利益が当初の計画より大幅に上振れました。
 - ・ 一方で、第4四半期にはエアバス機の非稼働による減収、及び航空機エンジンの整備機会の増加やグループ従業員のエンゲージメント向上施策による費用の増加を計画しています。

Q2) 通期業績予想の航空事業の費用について、当初の計画から増加した要素を教えてください。

- A2) ・ 通期業績予想の費用について、航空機エンジンの整備作業が増加したことにより当初計画から整備費が増加しています。また生産性向上に向けたグループ全体に対する人的資本への投資の影響により、人件費も当初計画を上回る想定です。

Q3) 事業別の単価・イールドについて、足元の動向と今後の見通しをどのように分析していますか。

- A3) ① ANA 国際旅客
- ・ 第3四半期は訪日需要と日本発の業務渡航需要が堅調に推移し、第3四半期単独の実質イールドはコロナ前比+47%と高い水準を持続しました。
 - ・ 第4四半期以降は、北米線を中心に需給バランスが緩和することによりイールドが低下すると想定しており、中長期的には現在の高イールドが徐々に正常化に向かう見通しです。
- ② ANA 国内旅客
- ・ 6月に一部運賃を値上げして以降、第3四半期までその効果は継続しています。値上げ対象外の運賃も含めて、コロナ前と比較すると今後も高水準で推移すると見込んでいます。
- ③ ANA 国際貨物
- ・ 第3四半期は、Eコマース需要を中心に中国発北米向けの三国間貨物が急増したことで需給が引き締まり、日本発北米線を中心に単価が上昇しました。
 - ・ 第4四半期は中国における旧正月などの季節要因もあり、単価は低下する見込みです。海運の混乱による航空貨物の需要への影響は現時点では見受けられませんが、今後の動向を注視していきます。

Q4) 2024年度以降の国際旅客の方面別の需要回復はどのように見通していますか。

- A4) ・ 2024年度は、欧州線を中心に増便や新規路線の開設など生産量を増加させる計画です。欧州線は他社も含めて生産量が回復していますが、引き続き需給が引き締まった環境が続くと見通しています。
- ・ 中国線の需要は個人ビザでの訪日客が中心で回復ペースは緩やかですが、アジア線の需要は堅調に推移すると見通しています。
 - ・ ハワイ路線は他社も積極的に生産量を伸ばす中、日本発のレジャー需要の回復が伸び悩んでいるため、来年度以降もプロモーション運賃の展開などの施策により、需要を喚起しながら旅客数を獲得していきます。

Q5) 来年度以降の業績について、現時点でどのように考えていますか。

- A5) ・ 今年度の好業績は、政府支援や国際線の需給の逼迫などの一時的な要因にも支えられたことなど、特殊な環境も背景にあると考えています。足元では航空業界の人手不足やエアバス機の非稼働など、対応すべき課題も多く顕在しています。
- ・ 今後この特殊な環境が徐々に正常化していく中で、来期に今年度を上回る利益を目指すことは容易ではないと認識していますが、いずれにせよビジネスモデルの構造的な変革に向けた戦略を着実に実行することで、当社グループが目指す中期的な成長を追求していきます。

以上